

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177500170		
法人名	株式会社ハヤシ環境		
事業所名	グループホームカルミア		
所在地	〒073-0024 北海道滝川市東町7丁目219番地6 (電話) 0125-23-1700		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算 9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り 平屋建て	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	16,800~26,250 円	
敷 金	有 ( 円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> ( 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <u>無</u>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050 円	

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	5 名	要介護4	6 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	80 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝川市立病院・滝川脳神経外科医院・柳歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、2ユニットを左右に配した鉄筋平家建ての建物で、各ユニットをつなぐホールは、2ユニット合同の行事を行うのに十分な広さがあるとともに、天井も高く、ガラス張りの窓からは、山や周辺の草木の四季折々の風景が眺められ、利用者に潤いを与えている。職員は、理念に基づき、利用者の自主性を尊重しており、職員と利用者が一緒に食事のメニューを決めたり、朝食は利用者の好きな時間に摂るなど、利用者本意のケアを実践している。また、事業所内にAEDを設置しており、全職員は救急救命講習とAED講習を受けるなど、非常時に備えている。職員と利用者の会話は絶えることなく、和やかな雰囲気を醸し出している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、改善課題の指摘はないが、家族からのアンケートの結果を受け、職員の顔写真と名前の貼りだしを希望する声に応じて、ホールに職員の写真と名前を掲示している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、主任、計画作成者、管理者が原案を作成し、それを職員に配布して意見を得る方式にしている。自己評価を通して、ケアのあり方について職員全員で見直す機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域の有識者等の参加により、3ヶ月に1度開催している。会議では、事業経過、利用者状況、外部評価結果、サービス提供内容等を報告しており、出席者からアドバイスを受け、運営に反映させている。今年度は、家族からの出席を得られず、会議においては家族からの意見、要望を得ていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、定期的に各行事写真を載せた「たより」を発行して、利用者の暮らしぶりを報告している。健康状態についても、医療機関受診後や状態変化時に、家族に電話で報告している。また、家族の来訪時や、ケアプラン説明時等には、家族から、意見や要望を聴き、随時対応している。なお、重要事項説明書に、苦情相談窓口を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入しており、事業所だよりを地域に回覧するなど、事業所への理解啓発に努めている。また、市主催の祭りに参加したり、ボランティア、大学の実習等を積極的に受け入れながら、地域との連携を深めている。しかし、災害時の協力関係を構築するまでには至っていない。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、地域に根ざしながら、地域との交流を目指す、事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい場所に掲げており、職員は、朝の申し送り時に復誦するとともに、ミーティングや勉強会で話し合い、毎日の実践に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、近隣に事業所だよりを配布、回覧している。また、地域主催の祭りに参加するとともに、ボランティアや大学の実習生を受け入れるなど、地域にとけ込むよう努めている。しかし、災害時に地域協力を得られるような関係を構築するまでには至っていない。	○	今後は、地域の幼稚園との交流や、子供見守り隊への協力などを通して、更なる地域との関係を深めながら、災害時に地域協力を得られるよう努めることを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、主任、計画作成者、管理者で原案を作り、それを職員に配布し、意見を問う方式で作成している。自己評価を通して、日々のケアを見直している。	○	職員一人ひとりの、自己を振り返る過程を大切にするためにも、職員に自己評価表を事前配布し、責任者を交えて職員全員で意見を交換し、作成することを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1度開催しており、事業経過、利用者状況、外部評価結果、サービス内容等を報告している。今年は、家族の出席が得られず、会議においては家族の意見、要望は出されていない。	○	今後は、会議への家族の出席を促し、意見、要望を得る機会を設けるとともに、会議では、運営報告を行うほか、具体的に検討事項を決めて、出席者から意見、要望を聞き取るよう取り組むことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを通して研修案内を受けており、その都度参加している。また、市に事業所の現状報告を行ったり、電話で市担当者に適宜相談している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、定期的に「たより」を発行し、利用者の暮らしの様子を写真を添えて報告している。また、利用者の健康状況については、受診後や体調変化時に、電話で報告している。なお、月末には出納帳の報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や、ケアプラン説明時等の機会を捉えて、意見、要望を聞き取っており、要望等には、随時対応している。また、重要事項説明書には、苦情対応窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを防ぐために、馴染みの職員による対応が大切であると管理者は考えており、できるだけ職員の異動を避けるよう心がけている。また、異動、離職がやむを得ない場合でも、十分な引き継ぎ期間を設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画は作成していないが、管理者は人材育成の重要性を認識しており、内部で勉強会を開くとともに、外部研修に職員が参加し、職員間での研修内容の共有も図っている。また、各種研修会の案内や専門誌を回覧するなど、参加を奨励しており、スキルアップに役立つよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のグループホーム協議会に加入しており、定期的に運営者、計画作成者、管理者、スタッフ個々の研修会を実施し、情報交換やスキルアップに役立っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人に事業所を訪問してもらい、他の利用者と一緒に昼食を採るなどしながら、馴染んでから利用を開始するよう工夫している。病院退院後に、緊急に事業所の利用を始めるなどの場合もあるが、家族と一緒に宿泊したり、職員の声かけを多くするなどして、安心感を与えるように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者から、漬物づくりや調理の味付け等を教えてもらいながら、共に支えあう関係を築いている。また、買い物に一緒に行ったり、作物づくり、水やり、下膳、茶碗ふきなど、利用者の興味、能力にあった場面づくりを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、毎日の関わりの中で、利用者の思いの把握に努めるとともに、センター方式を採用し、記録することで、職員全体で情報を共有しながら、介護計画に活かしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、利用者の意見、希望を、日々の生活の中から把握しており、家族の意見、要望も採り入れながら、1ヶ月に1度スタッフミーティングで話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、基本的に3ヶ月に1度の見直しを行っている。また、利用者の体調変化に応じて、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成するとともに、家族の同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望に応じて、かかりつけ医への受診、ドライブ、買い物、散歩など、多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診支援のほか、本人の状況に応じて、家族に助言したり、必要な医療機関と連携をとっている。また、事業所に看護師を常勤で配置しており、健康管理や相談に応じる体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期には、家族や医療機関と話し合い、協力病院等に移動するなどの対応を取ることを、重要事項説明書に明記しているが、具体的な看取りの指針や同意書を作成するまでには至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方についての指針や同意書を作成し、家族から、同意を得ることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような、声かけや対応を心がけている。また、個人情報に関する書類は、スタッフルームに保管しているとともに、守秘義務も遵守している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な事業所の1日の流れはあるが、利用者の生活習慣や体調に合わせており、特に朝食は利用者それぞれが好きな時間に摂っている。また、個別の買い物支援や散歩など、一人ひとりの希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と一緒に食事をするを大切にしており、共に食事メニューを考え、利用者の能力に応じて準備や配膳を行い、同じテーブルで食事を摂っている。行事にあわせて、おはぎを作り、誕生会にはケーキを手作りしたり、出前を取るなど、利用者の好みにあわせている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2、3回、時間を決めて入浴しているが、決まった日時以外でも、利用者の体調や希望にあわせ、いつでも入浴できるよう支援している。また、足浴は毎日行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者のできることや興味のあること等を見極めながら、茶碗洗いや茶碗拭き、食事の味付け、新聞取りなど、一人ひとりの出番や役割を支援している。また、週一度はレクリエーションの日とし、全員で遊べるよう工夫しており、習字やかるた、体操等の楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物、散歩、通院の付き添い、外食など、利用者の希望に沿った支援を行っている。また、敷地内の畑に水やりに出かけたり、収穫時には利用者と職員と一緒に収穫するなど、楽しみながら外出できるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。玄関にセンサーをつけているとともに、利用者が外に出かけようとする時は、一緒に事業所の周囲を散歩するなど、常に見守りを徹底している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度、消防署員の指導の下、通報、消火、避難訓練を実施している。また、全職員は救急救命講習やAED講習を受けている。しかし、災害時の地域との協力体制を構築するまでには至っていない。	○	周囲に雑木林が立ち並ぶ閑静な地であり、また、近隣は新興住宅地であることから、協力体制はまだ得られない環境であるが、運営推進会議や町内会を通して、地域連携を深め、災害時の地域との協力体制を構築することを期待する。また、災害時の非常食の備蓄等も検討することを期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を個別に記録しており、職員は情報を共有している。また、利用者の状態に応じて、刻み食、とろみ食、カロリー制限などの支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットをつなぐホールは広く開放的で、天井も高く、陽光が充分に入り、合同の行事や体操にも使用している。居間には、食堂テーブルと椅子のほか、ソファや、畳の小上がり部分もあり、利用者それぞれが、思い思いの場所で寛ぐ環境が整っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が、馴染みの家具や装飾品、写真などを持ち込むなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。また、出窓や洗面台を備えており、快適な生活空間となっている。		

※  は、重点項目。